

# 派遣留学生帰国報告書

\* 復学後の情報を入力してください

記入日	2017年8月4日		
所属学部	工学研究科		
所属学科・専攻	デザイン科学専攻		

## 1. 留学先について

留学先大学名	The Glasgow School of Art/ Köln International School of Design			
留学先所属学部等	Product Design/ Integrated Design			
留学期間	出発日 2016.9.4	入学日 2016.9.14	修了日 2017.7.31 帰国日 2017.8.3	
住居	<input type="radio"/> 大学(紹介)の寮・アパート	<input type="radio"/> 民間アパート	その他( )	
	通学時間	10分		
	通学方法	徒歩		
	居室スペース	<input type="radio"/> 個室	( ) 人部屋	その他( )
	共有スペース	<input type="radio"/> 完全個室	<input type="radio"/> キッチン	<input type="radio"/> トイレ <input type="radio"/> バス <input type="radio"/> リビング <input type="radio"/> その他( )
食事	自炊 60 %	学食 10 %	外食 30 % その他 % ( )	
保険	海外旅行保険(名称)	ジェイアイ傷害火災保険株式会社「tabihoたびほ」		
	派遣先大学指定の保険(名称)		<input type="checkbox"/> 強制加入	
	その他			
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)			
	成田 ⇄	グラスゴー(飛行機)	⇄ ケルン(飛行機)	

## 2. 留学にかかった費用について

総費用	1,940,500	円
出処		
自費	貯金 円	アルバイト 円
援助	両親 円	家族・親戚 円
奨学金	JASSO 円	<input type="radio"/> その他名称(トビタテ・埼玉発世界行き) 1,940,500 円
その他	千葉大学助成金 円	その他( ) 円

## 2-1. 財政管理の方法

渡航時	<input type="radio"/>	現金	50,000	円	その他( )	円
留学中		海外送金	<input type="radio"/>	キャッシング	その他( )	

## 2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	Paypal/ クレジットカード
住居にかかった費用	Paypal/ クレジットカード
その他	

## 2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)			140,000	円
海外旅行保険			140,000	円
OSSMA			20,000	円
査証・在留許可証	euro	50euro	6,500	円
住居	pond/ euro	2680pond/ 2800euro	746,000	円
食費			300,000	円
通学に要する交通費			0	円
教科書、教材費	euro	30	4,000	円
その他大学に支払った経費	euro	260	34,000	円
光熱費			0	円
その他 ( 交遊費 )			550,000	円
その他 ( )				円
その他 ( )				円
その他 ( )				円

## 3. 学業面

履修科目名	種類 <sup>ex.正規、聴講</sup>	単位数	単位互換認定申請の有無			
			○	有		無
1 Product Design- Culture, Context and Client	正規	25ECTS	○	有		無
2 FoCI- Contexts of Critical Inquiry; Situation, Relation & Res	正規	5ECTS		有	○	無
3 International Mentoring, Lectures, Tuesday Talks	正規	4ECTS	○	有		無
4 Cologne Resources	正規	1ECTS	○	有		無
5 Perform Program in Space	正規	6ECTS	○	有		無
6 Sparking Systems Change through Aesthetic Disruption	正規	3ECTS	○	有		無
7 Mobile and Sturdy- furniture for temporary use	正規	3ECTS	○	有		無
8 History of Immersive Design	正規	4ECTS	○	有		無
9 Desktop Video	正規	3ECTS		有	○	無
10 Gute Stube	正規	2ECTS		有	○	無
11 German 2	正規	1ECTS		有	○	無

## 3-1. 授業科目の選択、登録方法

The Glasgow School of Artでは、メインとなるプロジェクトは学科のカリキュラムとしてスケジュールが決定しているため、科目選択などはない。セメスター初日に年間スケジュールが配布され、それに従って授業が進められる。各プロジェクトは1週間～5週間と幅広い。途中、数時間のワークショップが用意されたデザインウィークというものがあり、その際は特設サイトから各自でワークショップへの登録が必要である。FoCIは毎週木曜日に2時間のレクチャーがあり、複数のテーマの中から興味のあるもの1つを選択する。初回授業への出席・サインで授業登録とみなされる。

Köln International School of Designでは留学開始前に提出する書類にて、関心のある分野や指導を受けたい教授を記入する。大学のコーディネーターがその情報を基に授業を構成する。シラバスと照らし合わせて授業の変更や追加を希望する際は、留学開始後にあるコーディネーターとの面談の際に申し出ることができる。また、大学の掲示板に各プロジェクトの名簿が貼っており、通常の学生は自分の名前を記入することで授業登録とみなされる。留学生は記入する必要はないが、途中からプロジェクトを追加したい場合は掲示板でサインし、初回授業への出席で登録できる。

### 3-2. 授業内容、方法に関して

The Glasgow School of Artではスタジオでの作業が主である。1つの期間には1つのプロジェクトのみ行われるため、集中して取り組むことができる。それぞれのプロジェクトの担当教員は異なり、初日はプロジェクトの説明や質疑応答から始まる。いつまでにどの程度まで進めるか、スケジュールの骨組みは指示されるが、進め方やグループミーティングの時間は各グループで決めることが多かった。教員と話す時間は限られており、基本的に月曜日と金曜日に10分前後のみだったため少ないと感じ、またアイデア展開の効率が良くないと感じた。プロジェクトの内容はブランディングや個人に向けたサービスプロダクト、病院のサービス改善など様々で、病院のプロジェクトでは実際にインタビューや観察をしに訪問するなど実践的に行うことができた。

Köln International School of Designのプロジェクトは学外に出て調査を行うことが多く、実践的にプロダクト・サービスデザインを行った。講義を聞くよりも手を動かすことが中心で、スケッチやアイデア出し、プロトタイプ作りをする機会も多かった。しかしプロジェクトによっては授業時間外で作業することが主だったため、グループでのスケジュール管理が必須であった。毎週金曜日にプレゼンテーションの時間が設けられており、プロジェクトの最終週はその時間内でプレゼンテーションを全学生に向けて行う。他のプロジェクトの作品も見ることができる良い機会であった。

### 3-3. 語学力について

グラスゴーでは英語力の不足を感じ、またスコットランド訛りの英語に苦戦した。会話が上手くできずに消極的になったこともあったが、スケッチやイラストで伝えるということがコミュニケーションの点で非常に役に立ち、またグラフィックが周囲に評価された。次第にスコットランドの英語にも慣れ、コミュニケーションがスムーズになった。寮で7人暮らしだったためフラットメイトと料理することも多く、英語を話す機会が多かったため英語力は伸びたように感じた。

ケルンではネイティブの英語でなかったこともあり英語が聞き取りやすく、聞き取れることが自信になり積極的に発言・行動できるようになった。生活でも支障はなかった。ドイツ語を学びたいと思い、ケルン応用科学大学のドイツ語の授業も履修したが、KISDと同じ組織であるがこちらの授業を考えたスケジュールではなかったため、プロジェクトと重なり出席が難しくなってしまった。KISDでもドイツ語の授業があったため、レベルは簡単であったが最後まで履修した。店での注文や簡単な日常会話はできるようになった。

### 3-4. 図書館など学内施設について

The Glasgow School of Artの図書館は有名なマッキントッシュ建築であるが、依然火事の修復のため工事中であり、全体を見たり中に入ることはできなかった。現在の図書館は小さいが、様々な学科に対応した本が揃っていた。アートスクールのためアートに関する本のみが揃っており、小説などはなかった。またDVDの貸し出しがあり、英語の勉強に役に立った。校舎内にあるカフェテリアは広くて快適であった。大学には付属のパブがあり、授業の帰りに友人と飲みに行くこともあった。パブの2階はホールになっており、ウェルカムパーティーやスコティッシュダンスなどのイベントが行われた。

Köln International School of Designの図書館はドイツ語の本が多く、あまり利用しなかった。図書館と学食はケルン応用科学大学の学生と共同で、1分ほど歩いたところにある。学食は学生割引が大きく、3ユーロほどで十分な食事ができた。KISDには様々なワーキンググループがあり、印刷室やカフェ、工房などを学生が管理している。私はカフェの仕事をしたが、授業では会わない人とも仲良くなることができ、良い時間を過ごすことができた。

## 3-5. その他

## 4. 生活面

## 4-1. 住居について

グラスゴーではシェアハウスを探そうと早めに出発し、ホテルに泊まりながら家探しをしたが、5か月の滞在は短すぎるため見つけることができなかった。また詐欺が多く、下見に来る前に1か月分の家賃を払ってほしいというメールが何件も来た。見つかる見込みがなかったため大学の寮に申請し、1年前に出来たばかりの新しい寮に入ることができた。基本的に出発前に寮に応募し、受け入れ許可が出なければならぬが、今回は空きが出たため追加募集をしていたのは幸いだった。寮は7人でキッチンとリビングのみシェアだったため、比較的一人の時間も充分にとることができた。フラットメイトは皆国籍が違ったため、夕食に持ち寄りパーティーをしたり、母国の料理を皆で作ったりと文化交流を盛んに行った。仲は良かったが、キッチンの掃除や片付けを怠る人が多くとても綺麗とは言えない環境だったため、友人と掃除の日を設けて声かけをした。シネマルームやゲームルームもあり、多くの留学生が同じ寮に住んでいたため夜に集まって遊ぶことも多かった。

ケルンでは一人暮らしをしたいと考えていたので、グラスゴーにいる間から家探しをしていた。KISDからの留学生もいたため、ドイツ語の通訳などを手伝ってもらった。こちらでもグラスゴー同様詐欺が多く、インターネットを介しての家探しは慎重に行うべきだと感じた。どの物件もすぐに下見に来てほしいというものが多かったため、前半でケルンに留学している友人に頼んで下見に行ってもらい、skypeで何度か話をし、家をおさえた。学校から徒歩5分の比較的新しいマンションで、キッチンが広くとても快適だった。学校が近いので友人が遊びに来ることも多かった。ドイツの人はあまり料理をしない人が少なくなく、以前住んでいた人は調理用ナイフを持ってないほどだった。

## 4-2. 食生活について

グラスゴーの食事は国際色豊かで、日本食レストランも比較的良好に見た。逆にスコットランド料理のお店などはなかなか見なかった。レストランの値段は高めだったので、自炊をすることが多かった。食べ物自体は値段が日本より安く、見たことのない野菜に挑戦するのは楽しかった。またフラットメイトと夕食をシェアすることもあった。

ドイツ料理は揚げたり茹でた肉とジャガイモという組み合わせが多かった。時々酒場でドイツ料理を注文すると、食べきれずに持ち帰り2、3食に分けて食べるほどだった。基本的に家で自炊することが多く、ドイツ料理はあまり食べなかった。家の隣の通りは古くからある商店街で、ローカルのスーパーマーケットやマルシェ、パン屋などがたくさんあったため食材を揃えるのが楽しかった。アジア系スーパーマーケットがいくつかあったので調味料などの調達は難しくなかったが、値段はやはり高かった。日本食レストランも多く、大学の前には2件も並んでいた。寿司やラーメンは人気のようで、よく食べに行く学生もたくさんいた。いろいろな国の学生と仲良くなったので、家に呼ばれて一緒に料理を作ることも多かった。そのおかげで様々な国の料理を覚えることができた。ドイツでは何もかもオーガニック商品が揃っている印象であった。オーガニック専門のスーパーマーケットもあり、私は質の違いを実感できなかったが、オーガニック商品しか使わないという人は少なくなかった。

#### 4-3. インターネット環境、携帯電話について

グラスゴーでは寮にインターネット環境が整っており、とても快適であった。ケルンでは有線しかなかったため、macbookを親機としてwifiを飛ばしていた。そのため常に充電し、画面を開いていなければならなかったのは少し不便であったが、有線のため回線は速かった。  
グラスゴーでは10ポンド位のプリペイド携帯を購入した。ケルンでのSIMも同じ会社だったが、国外のSIMカードは使用できないようにロックがかかっており、ケルンで使用することはできなかった。ケルンでは友人から不要な携帯をもらい、SIMカードのみを購入して使用していた。グラスゴー・ケルンともにwifiがあらゆる場所で使用できるため、とても不便というわけではなかった。

#### 4-4. 服装について

グラスゴーは渡航した9月から涼しかったが、上着が必要というほどではなかった。全体を通して思ったより寒くなく、天気の良いと冬でもコートが不要なほどだった。通り雨が頻繁に降るので、傘ではなくフードをかぶって過ごしていた。フード付きの服はとても役に立ったし、現地の人も傘よりフードを着用していた。建物内の暖房がどこも暑いので、コートの下は薄着で過ごしていた。冬の大学内でも半袖の人をよく見かけた。

ケルンは朝晩と昼間の気温差が激しかったので、上着を持って出かけることが多かった。昼間は30度を超える日も珍しくない。

#### 4-5. 健康管理について

日本から一通りの薬を持って行ったが、深刻な病気や怪我はなかったため病院も保険も使用しなかった。グラスゴーの寮の部屋にあったストーブは1時間ほどで消えてしまうので、寝た後はかなり寒く、厚着をして寝ていた。また日照時間がとても短いので、気持ちが落ち込むことや朝起きれない日が多かった。ビタミン剤を摂るようになってから少しだけ改善したと感じた。ケルンでも大きな問題はなかったが、網戸がないので虫刺されが心配だった。

#### 4-6. 保険、OSSMAの利用

深刻な病気や事故がなかったため両方とも使用しなかった。ドイツではビザを申請する際、日本で加入した海外保険がドイツの基準を満たしているため代替できることを示す証明書が必要になる。ケルン大学に付属するAOKという保険会社で発行するが、セメスター始めは多くの留学生が集まるので余裕を持って行った方が良い。

## 4-7. 課外活動について

グラスゴーでは9月にDoors Open Dayという1週間のイベントがあった。市内の歴史的建築や伝統工芸を紹介するもので、普段は入れない部屋や工房を見学することができる。その際にコラージュアーティストの女性に会い、マッキントッシュローズのステンシルを地面に描くワークショップのボランティアをさせてもらった。マッキントッシュローズはグラスゴー出身のデザイナー、チャールズ・レニー・マッキントッシュが製作したバラのモチーフで、家の壁やステンドグラスに用いられた歴史の長い作品である。ワークショップでは建築で有名な教会の前の広場に、マッキントッシュローズのステンシルを作り、いろいろな人に知ってもらおうというものであった。当日は天気が良く、地域の人がたくさん参加してステンシルを楽しんだ。現地のデザインの歴史について深く知る良い機会となり、私自身もマッキントッシュのファンになった。

ケルンでは大学の近くに日本人のオーナーが経営するギャラリーがあり、10周年記念祝賀会のインテリアデザインを担当することになった。京都の割烹料理を振る舞う食事会の雰囲気合う和モダンな雰囲気を、という依頼に従い、料亭のインテリアを参考にデザインを行った。最終的に窓の装飾と玄関口の門をデザインした。食事会には市長や領事館の方々がいらっしやり、食事会は成功し、インテリアも好評であった。10周年を祝う日本デーでは屋台でたこ焼きや綿あめ、たい焼きなどを作り、ドイツ人や大学の友人に日本食を紹介した。大学でもJapanese Nightがあり、学生に向けて寿司や味噌汁を振る舞った。

## 4-8. 学外のコミュニティとの交流について

グラスゴーでワークショップのボランティアをさせてくださったアーティストの方は、家に招いてスコーンなど伝統料理の作り方を教えてくださった。またワークショップで知り合った他大学の学生と仲良くなり、休日に食事に行ったりした。

ケルンではインターンシップをしたギャラリーのオーナーやその家族にお世話になり、一緒に出かけたりイベントの手伝いをした。ギャラリーは日本文化に関するものだったので、日本が好きなドイツ人やケルン在住の日本人の方とも知り合うことができた。

## 4-9. 日本から持参してよかったもの

薬: 留学先では処方箋がないと買うことができない薬が多く、また体に合わないのではないかと心配だった。

菜箸: 料理の際に使うことが多かった。

絆創膏: 海外のは粘着力がないものが多い。

ポケットティッシュ: 海外のティッシュは厚くて枚数が少ないので使いにくかった。

爪切り

体調を崩した時、体温計を持って行けばよかったと思った。

## 4-10. 日本から持参したが不要だったもの

電子辞書

カイロ

印鑑

## 4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

グラスゴーでは大学だけかもしれないが、クラスの仲間は友人というより同僚という意識があるようだった。みな仲は良いが、仕事仲間という意識があるのか、授業後は彼氏や彼女と会ったりすぐに帰宅する人が多かった。自分の意見を押し通すということはなく、人の意見を聞いて協力的に作業を進める印象を受けた。ただ時間を守らない人が多いなと感じた。

ケルンでは自分の意見をはっきり言う人が多いように感じ、授業の中でトラブルになることも少なくなかった。また議論を好む印象があり、友人と議論することが多く、意見を発信する良いトレーニングになった。

## 4-12. 余暇の過ごし方

## 旅行

アイルランド(2016年10月、3日間)約5万円  
 スコットランド・スカイ島(2016年11月、4日間)約3万円  
 フィンランド・ヘルシンキ(2016年12月、4日間)約6万円  
 イギリス・ロンドン(2016年12月、3日間)約2万円  
 イギリス・ロンドン(2017年2月、3日間)約1万円  
 フランス・パリ(2017年2月、14日間)約10万円  
 フランス・パリ(2017年3月、3日間)約5万円  
 ドイツ・ベルリン(2017年5月、5日間)約2万円  
 ポーランド・クラクフ(2017年6月、4日間)約4万円  
 スコットランド・グラスゴー(2017年7月、4日間)約3万円  
 フランス・パリ(2017年7月、3日間)約3万円

その他 \* 気分転換やストレス発散法など。

グラスゴーからロンドンは格安航空で簡単に行けたので、好きなミュージカルをよく見に行った。またキッチンが広く、設備が揃っていたので、フラットメイトや学外の友人と料理やお菓子作りをしていた。ケルンでは友人と外出したり、公園で昼寝をするなどしてリフレッシュしていた。

## 5. その他

## 5-1. 留学先大学について

The Glasgow School of Artはスケジュールがはっきりしており、いつまでに何をすれば良いかが明確だった。しかし、教授と関わる頻度が少ないため、アイデアを何度もブラッシュアップするには向いていないように感じた。また、FoCIほどの授業を取っても最終的にエッセイを提出しなければならない。内容が沿っていてもエッセイとしてのレギュレーションに従っていないと減点されるため、英文エッセイの書き方を知っておく必要がある。

Köln International School of DesignはIntegrated Designとしてどの分野のデザインにも関われるため、何を学びたいのかははっきりしていないといけな。また休日や書類の提出日はもれなくアナウンスがあるわけではないので、自分でスケジュールを管理する必要がある。



### 5-2. 留学希望者へのアドバイス

グラスゴーではグループワークや話し合いの時間が多く設けられているため、自分の意見を積極的に発言する必要がある。ネイティブスピーカーが多いので英語を話すのに自信をなくすこともあるが、スケッチやプロトタイプなど自分の特化しているところを強みにしていくと周りからも認められる。

ケルンでは入学前の提出書類でどの分野をやりたいのか明確にしないと、授業にやりがいを感じられないと思った。先輩からどのようなプロジェクトがあるのか情報を集めると効果的に学べると思う。

### 5-3. 留学を終えて

留学では実践的な授業を通してデザインスキルを伸ばすことができ、また自分のデザインの強みを見つけることができた。また両大学ともにアートにも特化した大学であったため、他専攻の学生と仲良くなる中で視野を広げ、感性が磨かれたように感じた。大学以外でも現地のアーティストや様々な人と関わる中で文化や歴史を知り、充実した生活を送ることができた。文化の違いや考え方の違いから衝突やトラブルもあったが、自分の意見を伝えることの大切さを実感し積極的に行動するようになり、以前に比べて自分に自信が持てるようになった。留学中に得た人とのつながりを大切に、これからも積極的にデザインを学んでいきたい。

お疲れ様でした